

大会後記

第65回大会 Neuro2022 のご報告

大会長 竹居 光太郎
横浜市立大学大学院生命医科学研究科

第65回大会は2022年6月30日～7月3日の4日間に渡って対面／オンラインのハイブリッド形式で開催されました。本大会はNeuro2022と称して日本神経科学会と日本神経回路学会との合同開催で沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンター、宜野湾体育館、ラグナガーデンホテルの3会場を使って行われました。神経科学関連の学会としては初めての沖縄大会で、遠方となるために参加者数がどのくらいになるか心配しておりましたが、皆様のお力添えによって、演題数1,869、参加者数約3,600名と大変盛況な学会として開催することができました。実行委員、プログラム委員、その他の大会役員、学会事務局の皆様にご厚く御礼申し上げます。

コロナ禍での対面開催のため、沖縄県や琉球大学医学部と密な連携を取って徹底した感染症対策を取りました。懇親会では人数制限を行った上で

抗原検査を義務化するなど、皆様にはご不便とご面倒をお掛けしましたが、皆様のご協力の下で何とか無事に終えることができました。コロナ禍とは別に、沖縄には鉄道網がないために交通アクセスが一番の懸念点でありました。那覇空港や那覇市内からのシャトルバス運行を行いました、行き届かない面が多々あり、皆様にはご不便をお掛けして大変申し訳ありません。また炎天下での移動を危惧して会場間のシャトルバスも準備しましたが、お役に立ちましたでしょうか。もう一つの懸念点は台風などの天候でした。1年の中で最も台風の影響を受けないとされる時期を設定したにも関わらず、見事に大会当日に直撃を受けることになり、予期せぬことではありましたが、これもまた皆様にご心配とご迷惑をお掛けすることになりました。大会最終日の夜には沖縄最大の花火大会が宜野湾で開催されるために花火大会運営側と連



若手育成セミナー集合写真



ポスター会場



甕入れ

携を取り、脳の花火を打ち上げて頂きました(残念ながら私自身はどれが脳の花火だったかわかりませんでした)。運営側の様々な問題があったにも関わらず、皆様からは非日常的な雰囲気を満喫できる沖縄での開催について多くのご賞賛のお言葉を頂戴し、非常に嬉しく思っております。

合同大会の強みとしては各種トラベルアワードを設定することができ、海外から46名、国内から37名の若手の方をご招待することができました。また、プレナリーレクチャーなどの海外からの招待講演者の多くはコロナ禍の入国制限やウクライナ情勢などの種々の影響で来日できずにオンラインでの講演になりましたが、ハイブリッドの強みを発揮してキャンセル無く全ての講演をオンタイムに実施することができました。前回の64回大会の大会長の和申先生の大会後記の中にご指摘があった『大会後オンデマンド視聴』を今回実施致



懇親会余興のエイサー踊り

しました。大会後の約3週間に渡って多くのシンポジウムをご視聴できたことと存じます。

神経化学会の特徴である「若手育成セミナー」と「若手道場」においては特に注力しました。「若手育成セミナー」では、若手育成委員会委員長の照沼先生、今回の世話人代表の久保先生と阿部先生には多大なご尽力を賜り、コロナ禍のイレギュラーな形式(恒例の飲み会のない形)ではありましたが他学会からの参加者も迎えて盛況に終えることができました。また、「若手道場」におきましても多数の他学会からの参加者を迎え、活発な議論を展開する素晴らしい会になったと思います。若手育成セミナーにおいては、一般財団法人ながひさ科学振興財団からご寄付を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

大会長におきましては至らぬ点が多々あったかと存じますが、Neuro2022では久しぶりに学会員同士が直に交流できた好機であったと皆様からの多数の喜びのお言葉を伺い、大会運営者の1人としてこの上もなく喜びを感じております。次回第66回大会は神経病理学会との合同大会として神戸で開催される予定ですが、益々の興隆を祈念致し、大会のご報告とさせていただきます。皆様、本当にありがとうございました。